

2023年6月4日

## センチメンタル・ジャーニー（大津・京都再訪）5/31-6/4

山口光恒・幸子

1年前の2022年6月1日に草津から歩いて琵琶湖ホテルに宿泊し、翌日遂に京都三条大橋に到着し、後期高齢者夫婦による江戸から京都520kmのブラ歩きを完了した。このときに宿泊した琵琶湖ホテルの待遇が良かったのでその後出版したブラ歩きの紀行記を送ったところ、同ホテルの副支配人から丁寧な礼状を受け取った。これを受けて丁度1年後の再訪を思い立ち、今回琵琶湖ホテルに2泊、京都1泊の予定で出発した。途中台風2号の影響を受けて6月1日から2日にかけて全国に線状降水帯による豪雨が発生し、6月2日の東海道新幹線が全面運休となったため安全を見込んで京都にもう1泊滞在して6月4日に帰宅した。上記の気象状況だったが、6月2日以外は雨に遭わず旅行を続けられたことは幸いであった。なお、上記の経緯から今回の旅は「センチメンタル・ジャーニー（大津・京都再訪）」と名付けた次第である。但し今回は徒歩ではなく、適宜公共交通機関を利用した旅とした。今回の旅のハイライトは数多くの国宝を見る機会に恵まれたことである。

### 5月31日(水) DAY 1 晴

朝10時から排水管清掃の約束があったので、それを済ませて家を出て10時55分の「のぞみ」で京都経由JR大津着、ホテルバスで琵琶湖ホテルに2時前にチェックインした。我々の旅行記「後期高齢者夫婦の旧東海道ブラ歩き（33日間の旅）」に対して丁寧な礼状を貰った寺澤さん(副支配人)から出迎えの挨拶を受ける。このホテルは昭和9年(1934年)に滋賀県初の国際観光ホテルとして開業したホテルで、かつて昭和天皇やヘレンケラーも泊まった由緒あるホテルだ。但し現在の建物は別の場所に新築されたもの。部屋からは琵琶湖が一望でき、野天風呂付き温泉大浴場もあってのんびり出来た。部屋からの夕暮れの風景も気に入ったので写真に収めた。今回はゆっくりと2泊の予定だ。

部屋で一休みの後ホテル近くの京阪電車で石山寺に向かう。この寺は旧東海道から少し外れているが、昨年も訪れて印象深かったので再訪したもの。石山寺駅で下車し、琵琶湖から流れ出る瀬田川に沿って800メートルほど歩いて東大門から境内に入る。しばらく歩いて右折して急勾配の長い石段を登る。登りきってすぐ国宝の本堂がある。この寺は天平19年(747年)開基の真言宗の寺で9件の国宝を有する全国的に名の知れた寺である。本堂の一角に「源氏の間」があり紫式部の人形が鎮座している。ここで紫式部が源氏物語の構想を得たと伝えられ、現在では紫式部の石山寺として知られている。本堂からさらに急坂を登っていくと豊浄殿で、ここで源氏物語絵図の特別展を開催中でこれを見る。色彩も大変美しく横に解説もあるので楽しめる(写真1)。昨年はこの場所で故瀬戸内寂聴と源氏物語に関する特別

展が開かれていた。このあと建築様式に特徴のある国宝の多宝塔を見て急坂を下り、石山寺を後にする。その後京阪電車で三井寺駅まで行き、駅周辺の「大津絵の小径」を散策の後、夕食のためホテルで教えて貰ったおでん屋に行ったが満席で断られ、別の近江牛の店で夕食後ホテルに帰り、部屋から夕暮れの琵琶湖と比叡山をゆっくり見る(写真2)。この日の歩数は16000歩。

## 6月1日(木) DAY 2 晴

6時前に起きて大浴場で朝風呂に浸かりながら琵琶湖の景色を楽しむ。7時からの朝食後三井寺に向かい、9時前からお昼過ぎ迄ゆっくり見学する。ここは686年(天武天皇15年)開業の天台宗の総本山で、正式名は園城寺。1年前は京都に向けて歩きはじめる前に後述の義仲寺と三井寺を駆け足で見てから京都に向けて発ったので、その時は短時間で国宝の金堂を見、有名な三井寺鐘楼の音色を聞いただけだった。今回は寺のパフレットにあるほぼ全ての見所をゆっくり訪れることができ満足した。

ホテル最寄りの京阪の浜大津から一駅電車に乗って三井寺駅下車、そこから琵琶湖の疏水に沿って歩く。実は琵琶湖の疏水を船に乗って京都の蹴上まで行く観光船が出ており、一度乗ってみたかったが、京都に向かう明日は雨の予報で断念したので、出発地点を突き止めて写真に収めた(写真3)。

三井寺にはまず重文の仁王門から入り、案内所に沿って西国十四番札所などほぼ全ての建物を見学した。去年は金堂が生憎工事中でしかも他の観光客も多く良い写真が撮れなかったが、今年は工事が終了していたこと、沖縄近辺の台風のせいで悪天候が予想されたこと(事実翌日は大雨だった)、見学時間が早かったことからしばらくの間観光客は我々だけでまさに金堂を1人(2人)占めして心ゆくまで堪能し、良い写真が撮れた(写真4)。実際金堂は惚れ惚れするほどの美しさだ。屋根の角度もなんとも言えない。奈良の唐招提寺も大変好きな寺だが金堂もそれに匹敵する。このほか特に印象に残ったのは文化財収蔵庫だ。三井寺には国宝10件(64点)、重文42件(720点)が秘蔵されているそうだが、そのかなりのものがここにある。ここは写真撮影禁止で残念だったが、特に印象に残ったのは869年(貞観十年)に第五代天台座主になった智証大師が唐に留学の際、長安の役所から交付された現代風に言うビザの2種類の現物があり、同種のもはここ以外には世界に現存しなという文書2点(国宝)と、智証大師の日本出発から長安往復のほぼ三年にわたる足跡の地図で、それを見ることで当時の留学生がいかに大変な旅をしたのか、それにも関わらず当時の有為な人材が学問(仏教修行)の為にあえてこれに挑んだことに心を打たれた。

三井寺の最後にちょっと洒落た茶屋があったのでここで美味しいアールグレイの紅茶とおはぎを食べて休息。ここから大津の町と琵琶湖が遙かに見渡すことが出来る。驚いたことに

数日後にここでピアノとバイオリンのコンサートがあり、なんとフィンランド在住のピアニスト館野泉さんの息子さんがバイオリンを弾くと、のチラシが置いてあった。ここに住んでいればぜひ聴きたいと思ったと同時にこの場所の文化の高さを感じた瞬間だった。

三井寺を堪能後、大津歴史博物館に行く。ここでは大津絵の特別展があったのでそれを見たのち付属の食堂で近江牛 100%のハンバーグで満腹となる。

食後市役所前駅から膳所(ぜぜ)まで京阪電車に乗り、下車後義仲寺(ぎちゅうじ)まで歩く。昨年も来た懐かしい場所だ。ここには木曾義仲と芭蕉の墓が隣り合わせとなっている(この由来は昨年出版の紀行紀参照)ほか、芭蕉の句碑が二つある。一つは辞世の句である「旅に病んで夢は枯野を駆けめぐる」(写真5)であり、もう一つは「古池や蛙飛び込む水の音」だ。このほか建物の天井に若冲の絵もあり、昨年同様暫し文化の香りに浸り、満ち足りた思いでホテルに戻る。大浴場で疲れを癒したのちに近所の大して美味しくないレストランでディナー。本来は昨年トライして気に入っていたホテルのイタリア料理店を予定していたが、定休日にぶつかり残念だった。夕食後ホテルの眼前の琵琶湖に突き出している散歩コースを散策し琵琶湖ホテルの夜景写真を撮ったりしていると、修学旅行の中学生の一群に遭遇。一挙に賑やかになるが暗がりデートしているカップルがコソコソと逃げ出すという場面もあった。ちょっと気の毒だった。この日の歩数は 19000 歩

### 6月2日(金) DAY 3 強雨

台風2号の影響で朝から猛烈な雨。6時半に大浴場の温泉に浸かり7時過ぎから朝食。食堂はすいている。今日は京都に行く日だが方法は5つある。第1はJRで大津から京都に行く案、第2は浜大津から京阪電鉄で京都の烏丸御池に入る案、第3は琵琶湖側からケーブルで比叡山に登り別のケーブルカーに乗って京都市内に入る案、第4は琵琶湖から疏水を船に乗って京都の蹴上に行く案、第5は徒歩である。このうち第5案は既に昨年実施済みであること、第4案は最も魅力的だが、交通費がふたりで1万円と高いこと、加えて折からの強雨でずぶ濡れになる恐れがあることから残念ながら断念、第3案もこの悪天候で視界が極端に悪いことから候補から外れ、出発駅がホテルから近いこと、京都の終着点ホテル(東急ハーベスト鷹峯)に比較的近いこと、このルートは昨年我々が歩いた旧東海道に近いルートを通ることから、この案を選ぶこととした。朝食後どこにも出ないでホテルの部屋で今回の旅行記を書きはじめたが、チェックアウト時間の11時になっても一向に進まない為ホテルに依頼して12時まで滞在を伸ばしてもらった。この時点でも雨は止まないで昨年来お気に入りのホテル内のイタリアンレストランでランチの後、午後1時30分浜大津始発の京阪で京都に向かう。途中逢坂の関の登り道は旧東海道と並行しており、一年前苦労して登坂したことを思い出して大変懐かしかった。京阪を烏丸御池で降りて市営地下鉄に乗り換えて北大路で降り、タクシーに乗って2時半ホテルにチェックイン。ここは義理の息子に

手配して貰った大変感じの良いホテルだ。しかし強雨がやまない為ホテルから一步も出ず夕食もホテル内で済ます。部屋でテレビをつけると関東以西の各地に避難指示が出ており、東海道新幹線も東京一新大阪間で運転見合わせなど甚大な被害が出ている。こうしたわけで今日はどこも見ず琵琶湖湖畔から京都北西部への移動に明け暮れた。本日の総歩数は6500歩。

## 6月3日(土) DAY4 快晴

朝7時過ぎに起きて、部屋に備え付けの露天風呂に入る。別棟でバイキングの朝食。昨晚の中華同様なかなか美味しい。食後テレビをつけると新幹線は昨日の豪雨の影響でこの日も午前中東京一大阪間は運休ということで俄に本日の帰京が怪しくなった。幸子には延泊を勧める娘からのメールが入る。念のため八条の都ホテルに電話を入れると部屋はあるが交通混乱による宿泊増で値段は平常の倍とのことだったが、安全を見込んで予約する。手荷物を同ホテルに別送し、10時過ぎにチェックアウト。天気は快晴で絶好の行楽日和だ。

徒歩10分ほどで鷹峯の光悦寺に行き光悦垣や庭園をゆっくり見る(写真6)。徳川家康が江戸時代の芸術家である本阿弥光悦に元和元年(1615年)にこの地を与え、この地に光悦の一族や様々な工芸の職人らが移り住み芸術の集落となり、光悦の死後にその屋敷は寺となったとのこと。境内には光悦の墓碑がある。庭からは鷹峰三山のほか、京都市内の遠望も素晴らしい。ここは学生時代から好きな寺だったが市の中心部からかなり北西にあり、訪れたのは数十年ぶりだった。次にその近くの源光庵を訪れたが法要中で拝観できず、バスと地下鉄を乗り継いでとりあえず翌日の切符確保の為に京都駅に向かいお昼頃到着。この時点では新幹線は不規則、間引き運転中で、緑の窓口は長蛇の列だ。場所柄外国人(主として西洋人)も多い。1時間ほど並んで翌日午前中の「ひかり」の指定席への変更ができた。我々はジパングクラブの割引切符で旅行しているので「のぞみ」には乗れないのだ。これで明日は座って帰ることができる。一般的に指定席は満席で多くの乗客が自由席で帰京という状況のようであった。

この後駅構内でまずいランチを済ませ、上賀茂神社を目指す。地下鉄で北山へ行きバスに乗り換えようとしたところ長蛇の列で乗り切れないという異常事態が発生している。聞いてみると上賀茂神社の境内で葉加瀬太郎の野外演奏会がありそこに行く人たちとのことだった。これではいくら待ってもバスに乗れないので作戦を変更し、しばらく待って漸くタクシーを捕まえて目的地に達した。驚いたことに境内には無数の椅子が置かれ、一般の参拝者はここを迂回させられる。しかも歩行中にラウドスピーカーでうるさい音楽を流すという具合で機先を削がれ、ほうほうの体で本殿をチラリと見ただけで失礼する。葉加瀬太郎に恨みはないがいい迷惑だ。

我々の計画はここから下鴨神社まで加茂川に沿って歩くことだが、歩きはじめた所に CAFE があったのでここで小休止の上、歩行開始。川の流れは前日の豪雨のせいで早い、土手の内側に自動車の通らない気持ちの良い散歩道があり、途中木と石でできた洒落たベンチや句碑もあり、まさに加茂川が市民に愛されていることを肌で感じた (写真 7)。北大路で加茂川から離れて左折、さらに右折し暫く歩くと下鴨神社入り口付近にみたらし団子の店があったので再び一休み。7~8 人の修学旅行の中学生が居る。最近の修学旅行は大型バスで団体で動くのではなく、少人数で自分たちで計画を立てて歩きたい。

一休みの後正面からではなく西側から下鴨神社入るといきなり本殿である。参拝の後参道を南下する。かなり長い。こちらの方が上賀茂神社より規模が大きいようだ。出口近くに鴨長明ゆかりの河合神社があるが時間の関係で割愛。その後暫く歩いて、加茂川と大原から来る高野川が合流する今出川通りからバスに乗り四条河原町で下車。ここからは繁華街でもっぱら幸子が先導し、光恒はその後ろ姿を見失わないよう必死で付いて歩く。特に錦市場は大変な混雑だ。ここで馴染みの店で京の佃煮を買い、大丸の地下で晩の夕食を仕入れてホテルにチェックイン。一寸狭いが仮の宿としてはまあまあだ。部屋でビールを飲みながら夕食、光恒はすぐに眠くなって寝る。

この日の歩数は 24306 歩。昨年大津から京都に歩いた時の歩数は 32000 歩程だったので、京都市内のみの歩行としては結構歩いた勘定になる。

## 6月3日(日) DAY5 快晴

7時過ぎに起床。荷物を纏めて8時ごろ目の前の京都駅構内の珈琲屋で朝食。ホテルに帰りすぐに歩いて東寺に向かう。先ず講堂に入る。ここは弘法大師により着工され平安時代の835年に完成したが文明18年(1486年)の火災で消失し、6年後に再興された建物。建物自体が重文であるほか収蔵の21躰の仏像のうち帝釈天ほか16躰が国宝、残りの5躰が重文という豪華版であったが、時間の関係でゆっくり鑑賞できなかったのは残念な次第であった。続いて国宝の金堂に入り薬師如来など3躰の重文をみる。ここも1486年の建立の後一旦焼失したが1603年に再興されたもの。

いよいよ国宝五重の塔だ。これも4度の焼失を経て正保元年(1644年)竣工の高さ55メートルの塔で、現存する古塔のうち最高の高さを誇る。見た目が非常に美しい(写真8)。五重の塔が池に映る景色を堪能した後東寺の別格本山の観智院を鑑る。枯山水を有する国宝客殿や宮本武蔵の作と伝えられる驚の絵などをやや駆け足で見てホテルに帰り、すぐチェックアウトして10時33分の「ひかり」で帰京。前々日の台風の影響がまだあるのかほぼ満席の状態だった。品川で乗り換え午後1時半、来合わせていた娘二人と孫に迎えられて無事帰宅し、今回の旅を終了した。本日の歩数 9907 歩

以上

(写真1) 石山寺源氏物語絵図特別展



(写真2) 琵琶湖と比叡の夕暮れ



(写真3) 京都行き疎水舟の旅出発点



(写真4) 三井寺金堂 (国宝)



(写真4) 芭蕉辞世の句碑



(写真5) 光悦寺と光悦垣



旅に病んで夢は枯れ野を駆け巡る

(写真 7) 加茂川川岸の遊歩道



(写真 8) 東寺五重塔 (国宝)



池に東寺の影が映る